

教育分野における ICT 利活用推進の取り組みについて

～ ICT は現代版「読み・書き・そろばん」、機器は日常文房具～



吉 橋 晴 司

(ICT 利活用推進分科会 教育・人材 SWG/セイコーエプソン株式会社)

<活動の目的>

インターネットの普及やネットワークインフラの発達、新興国の台頭など世界はより身近になってきており、国際社会での競争も激しくなっている。そのような中、我が国の人材がグローバル競争を勝ち抜いていくためには、学びの環境を整備していくことが重要である。

特にイギリスやシンガポール、韓国などでは、教育現場での ICT 機器の普及や利活用の進展がみられ、教育の質の向上に挑戦している。我が国においても、電子黒板やタブレット、PC などの ICT 機器は、着実に普及してきてはいる。しかし、国が目標として掲げる「一人 1 台の情報端末」の環境となるには課題は多い（「世界最先端 IT 国家創造宣言」などの達成にはなお一層の努力が必要など）。世界最先端の日本の ICT 環境を教育・

人材育成の分野で活かし、国際社会で活躍できる人材を育てるため「教育・人材」SWG では以下の目的を持ち、産業界として学びの環境整備を支援している。

【学校教育において ICT は現代版「読み・書き・そろばん」として必要なツールであり、ICT が教育や人材育成で当たり前活用されている状態となるための環境づくり・整備を行う】

<活動内容>

教育・人材 SWG は、これまで学校における ICT 環境の更なる充実、そのための教員養成制度の改革や財源確保に向けた政策提言など、以下の活動を実施してきた。活動にあたっては、特に教育現場の視点を大切に活動に取り組んできている。具体的には、先進的な取り組みを進める

学校の公開授業に参加し、ICT 利活用の実態を観ると共に、ICT を利用される教員の立場からの意見をうかがうため日本教職員組合（日教組）からヒアリングするなど、ユーザー視点で活動している。

(1) 教育・人材に関する政策動向調査

政府のマネジメントサイクルに合わせて政策や予算動向を調査・共有。

(2) ICT 機器導入校視察

現場実態を把握するため、日野市立平山小学校や杉並区立桃井第三小学校、私立広尾学園（中学・高校）などの ICT 機器活用校の公開授業を訪問し、観察・分析を実施。一つの学校を定期的に訪問することで、進捗度合の把握などにも努めている。

(3) 日教組との意見交換

ICT を利活用する教員の立場からの課題等についてヒアリングすると共に、課題・対策について意見交換を実施。

(4) NTT グループとの意見交換

教育スクエア事業を展開する NTT グループの戦略や実証実験状況をうかがい、意見交換を実施。

(5) 世界最先端 IT 国家創造宣言（案）への意見書提出

学校への ICT 導入スピード加速化、導入財源の明確化、教員養成課程での ICT スキル習得、ICT 支援要員の確保（IT 技術を持ったシニアをはじめとした外部人材活用）などを要望。

(6) 総務大臣、経済産業大臣への要望書提出



杉並区立桃井第三小学校：タブレット PC 活用



杉並区立桃井第三小学校：電子黒板設置、活用

教育環境の ICT 格差是正、小中高で一貫した ICT 教育の取り組みなどの提言を実施。

＜活動における課題認識＞

これまでの政策提言活動を通じて、本 SWG では、教育分野における ICT 利活用推進について、

現在下記のような課題認識を共有するに至っている。

(1) ICT教育の地域間・学校間格差の拡大

ICT機器やデジタル教材の導入に積極的な地域・学校と、そうでないところでは、その差が拡大する傾向にある。また、学校にはそれぞれ固有の問題があり、成功している学校はそれらを克服してきており、成功事例を横展開すれば導入が進むという単純な構図ではない。

(2) 小中高で一貫したICT教育の必要性

小学校でICTを導入した授業を受けた生徒が中学校でICTを導入していない学校にいった場合、ICT教育の連続性が保たれず、せっかく小学校で習得したことが途絶える可能性がある。

(3) 教員養成課程でのICTリテラシー向上や校務におけるICT利活用推進

教員養成課程でICTスキルを習得していない教員がICT導入校に配属されて利活用できないケースがあり教授法（ICTの使い方やプレゼンテーション技能）に課題がある。ICTを利活用できれば校務が効率化され、教員の負担も軽減される。

(4) ICT機器＝当たり前の文房具という認識の普及

現代版「読み・書き・そろばん」を支えるものという意味で、タブレットやPCは子供たちにとって一般的な文房具の一つであり、電子黒板は教室に当たり前に備え付けられている備品

の一つであるという、視点を共有することが重要である。子供たちは、ICTを使うことで、自ら課題を見つけ、解決方法を探り、自分の意見としてまとめ、仲間と意見交換したり、説明する力を養うことができる。また、多くの保護者はICTを導入し、先端的な教育を行っている学校や地域があることを知らないケースもあり、広く知って理解してもらうことが必要である。

(5) ICT利活用を推進するための財源の明確化

普及に向けてこれから今まで以上の導入・維持管理費用がかかることを考えると、財源は地方交付税交付金だけでなく、用途を限定した財政措置が必要である。

＜今後に向けて＞

これまでの活動では様々な視点で課題を捉え、議論を重ねてきたが、今後は先進的な取り組みを行っている学校からだけでなく、ICT導入未着手校の状況やその背景なども把握しながら、CIAJらしさを発揮してICT利活用の推進をはかっていく。

我が国がグローバル競争で生き残っていくためには人材の競争力をつけることが急務であり、そのためには教育を学校任せにするのではなく、社会全体で子供たちを支えていく必要がある。ICTを現代版「読み・書き・そろばん」として子供たちが利活用して、世界に通用する人材に育てていくためには産業界が果たす役割は大きい。